

各国の人々にとって住みやすい都市を目指して欲しい。

—— タイ国政府貿易センター福岡 所長 ミーナー ラッタウイシット氏



ミーナー ラッタウイシット

タイ国タマサート大学経済学士。米国にて財務 M.B.A 取得。

タイ国政府商務省入省後、駐シンガポールタイ王国大使館商務部一等書記官、駐インドネシアタイ王国大使館商務部商務参事官、タイ国政府貿易センター・ブダペスト副所長等を経て、2008年3月より現職。

タイと日本間の経済が活発化した 25 年

この 25 年、日本とタイの両国間の経済交流は、拡大の一途をたどってきました。タイにとって日本は最大の直接投資国であり、また貿易面でも第一位であった米国を抜いて最大の貿易相手国となっており、日本とタイは経済面において重要なパートナーであると言えます。

特に自動車産業に関して言えば、日本の主要な自動車メーカーや部品メーカーはタイを重要な生産拠点に位置づけています。先般の東日本大震災を受け、日本の製造業の海外進出が今後かなり進むものと考えられますが、タイは進出先の一つの有力な候補になるのではないかと考えています。さらに、2015 年には ASEAN 自由貿易地域 (AFTA) という、単一市場への統合が実現する予定であり、ますます日本企業が域内の自由貿易を求めて、タイを含む ASEAN に進出していくのではないかと思います。

日本全体の傾向はこのような状況ですが、九州に関しても同じように、タイとの経済の結びつきは強まっています。九州からタイへの大手製造業の直接投資は、本州ほど多くありません

が、ここ 2、3 年は九州の飲食店や食品加工業の進出が増えているように感じます。九州のラーメン店がタイで展開している例も見受けられますね。

貿易についても同じような上昇傾向にあると言えます。本年上半期の輸出入額は、前年同期比で 40%ほど増加しています。九州へはタイヤ用のゴムや食品がタイから主に輸入され、鉄鋼、自動車部品や半導体等がタイ向けに輸出されています。タイの輸出企業側からも、博多港、北九州港、門司港等北部九州の港への認知度と利用頻度が高まってきているように感じます。

今後もタイと日本は長い付き合いが続く

25 年も先のことは分かりませんが、今後 5～10 年は現在のような両国間の経済交流の拡大は続くだろうと思います。また、今後福岡市からどのような産業がタイへ進出するかの、現時点では分かりませんが、ひとつ言えるのは、タイの市場は海外からの参入に対し常にオープンなので、日本の質の高い商品やサービスも受け入れやすい下地があるということです。タ

イは親日国であり、日本のブランドや日本のことについてよく知っていますので、福岡市の企業がタイで活動することはいつでも歓迎されると思います。

逆にタイから日本への進出ですが、一般的には日本は参入が難しいマーケットだと言われています。日本の商習慣からか、タイの輸出企業も日本企業と取引に至るまでに、長い期間を要することが多いようです。ただし、一旦取引が発生し、信頼関係が構築されれば、その後長い付き合いが出来るのが特徴だと思います。同様に日本とタイの経済についても、両国間の信頼に基づき、末永く良好な関係を築いていくものと期待しています。

少数派の外国人へも配慮を

さて、私は福岡に来てまだ3年しか経っていませんので、今後の福岡の目指す方向やビジョンについて語れることは少ないですが、福岡に来て生活をしている外国人の視点から、いくつか対応していただきたい点についてお話ししたいと思います。

私は福岡に赴任する前から、福岡は世界でも有数の住みやすい都市であると聞いていました。そして、実際住んでいる今もそうだと感じています。福岡は東京のような過密都市ではありませんし、また自然も多く、人々も非常にフレンドリーです。ただ、他の世界の大都市や東京、大阪などと比べると、英語の併記が細かいところまで行き届いていないと感じます。

例えば、タイから客人が福岡に来た際に、美術館などに連れて行く機会がありますが、このような歴史や文化を知るような場所での英語表記が不足しているように感じます。タイ人の多くは英語が理解できますし、その他の英語圏以外の国の人々もそうだと思います。福岡市は地理的に中国と韓国が近いので、中国語と韓国語に関心が高いのは分かるのですが、英語とい

う、それ以外の国の人々が共通して理解できる言葉にももっと力をいれるべきだと思います。そうすることで、観光客が来やすくなりますし、何よりも福岡市が国際都市として進もうとするのであれば、改善していかなければならない課題ではないかと思います。

ワンストップサービスは必要

私が福岡にきて最初に困ったことは、家具付きの住居が福岡でなかなか見つからなかったことです。外国人が期限を決めて福岡で居住するには、家具付きの賃貸マンションやマンスリーマンションなどが不可欠だと思うのですが、東京、大阪では見つけやすいと聞いていたのですが、福岡では探すのに苦労しました。

このような生活上の困難を含めて、私は福岡に外国人の居住や雇用、生活をケアするワンストップサービスの窓口を設けるべきだと思います。このような機能があることによって、福岡は海外との交流をより広げることが可能になるのではないのでしょうか。

インタビュー日:2011/8/4 文責:URC 天野